

徳久利遺跡

平成19年度個人住宅建築及び個人農地
造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2008

長野県富士見町教育委員会

例　　言

- 1 本書は、平成19年度に国から国宝・重要文化財等保存整備費補助金の交付を受けて、富士見町教育委員会が行った徳久利遺跡の発掘調査報告書である。調査原因は、富士見町富士見11836-8、11840-2が個人住宅建築、富士見町富士見11840-1が個人農地造成によるものである。
- 2 発掘調査は11月15日から11月28日、整理作業は12月4日から翌年3月20日まで行った。
- 3 発掘調査は小松隆史が担当した。また本書の執筆・編集は小松隆史・樋口誠司が行った。
- 4 本報告にかかる出土品、諸記録は井戸尻考古館が保管している。
- 5 調査担当者、発掘および整理作業員は以下のとおりである。

調査担当者 小松 隆史

発掘作業員および整理作業員

朝香 輝朗 小林やす子 北沢 洋子 佐藤 裕子 原田ちま子

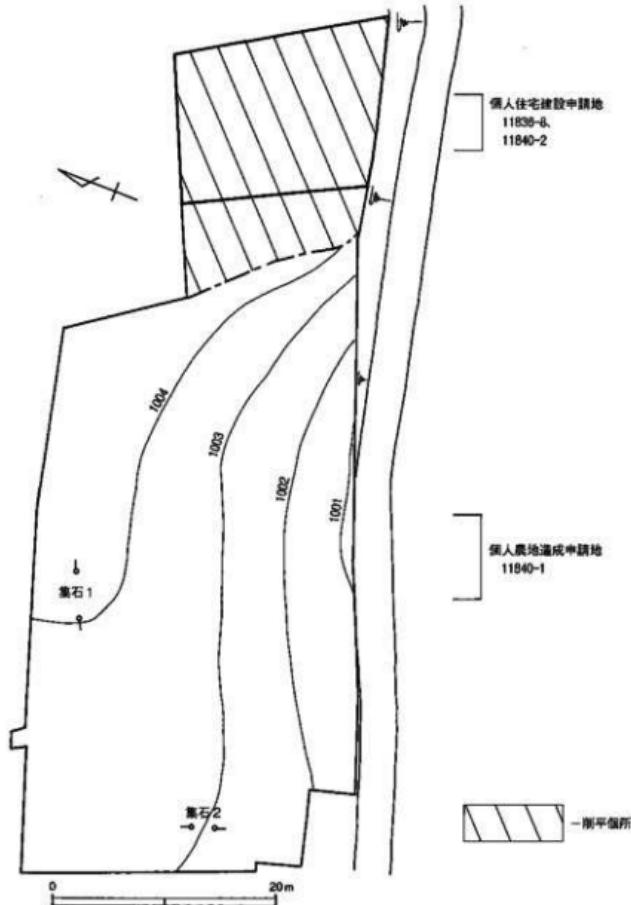
平出 文子



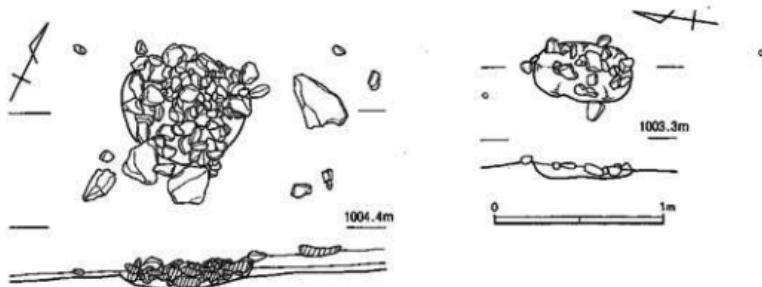
第1図 遺跡位置図及び調査区（1:2000） 中央1が徳久利遺跡

1 遺跡の環境と調査の経緯

八ヶ岳の南麓と西麓を画する立場川は、釜無川と合流して南東に向きをかえ、富士川に合流する。八ヶ岳から扇の骨のように延びる尾根は、南麓では南西から南側に、西麓では南西から西側を向いている。徳久利遺跡は南麓寄りにあり、標高990～1,020m、尾根の最大幅200mで、南西



第2図 調査区全体図 (1:500)



第3図 集石1(左)と集石2(右)(1:40)

の方向に長くのびている。その名のとおり徳利の形をしていて、県道払沢富士見線がちょうど頭のあたりを南北に走り、これを境に東側が原村、西側が富士見町の地籍となっている。

ここは戦後開拓が行われ、その際に多くの遺物が出土し採取されている。そして昭和25から27年にかけて、宮坂英式氏により15軒の住居址を、昭和59から60年にかけて個人住宅建設に伴って町教育委員会により、住居址3軒、掘立柱建物址1棟ほかを発掘している。これらから、尾根の中ほど最も幅のある場所に中期中葉の集落が、二の沢川に南面する緩い斜面に後期中葉の集落が形成されていることがわかつてきただ。

平成19年7月15日、地主の原田衛氏から宅地建設と農地造成をしたい旨相談があり、これまでに調査した場所の西側にあたることから、協議の結果、2,940m²を国庫補助事業で実施することになった。11月1日から準備にかかり、15日から宅地建設予定地の調査を進めて行き、整理作業は12月4日から始めた。

2 遺構と遺物

集石1 調査区の南向き斜面をのぼりきったあたりで、表土剥ぎの際に礫の集積がみとめられた。ほぼ尾根の頂部であり、精査にともなって早期押型文の土器片が出土したことから、当該期の集石であることがわかつた。このあたりは表土から20cmほどでソフトローム面に達してしまうため、一部の礫は農業用機械によって動かされていたが、幸いほとんどは当時の位置を保っていた。

集石は、小さいものでは卵大から大きなもので30cmをこえる礫、合計148個で形成されており、赤色の膜を厚く被るものが多くみられた。

上面では大きい礫が目立ち、中～下面には小ぶりの礫が詰まっている。平面の直径は約1m、

東側の辺では大きさの揃った板状の礫が折り重なるように、これに対して北側の辺では丸みを帯びた礫が並べられているようであった。

また集石上面は比較的平らだが、下面は皿状の掘り込みに沿うようにやや凸レンズ状になっており、中央には割られた平板石が据えられていた。礫の中には、ソフトロームに食い込んでいるものもあった。

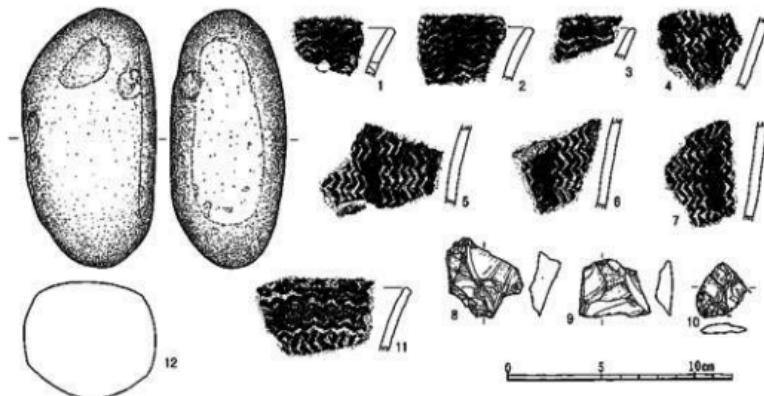
間層は炭混じりの褐色土で、遺構外に比べると炭の量が多い。ただし炭粒は決して大きいものではなく、また、火を使った痕跡はみとめられなかった。

押型文土器の破片は7点で、同一個体のものと目される。ほかに刃こぼれのある不定形の剥片石器が2点と小さな剥片が1点出土した。いずれも黒曜石。

集石2 卵～掌大の安山岩を20個用いている。赤色の膜を被る地山に由来する礫もみられた。礫は層をなしておらず、概ね平らである。掘り込みは深いところ10cm、底は皿状をなす。間層は褐色土で、大豆大の炭粒が少し混じっている。礫および掘り込み部には、火熱を受けたような痕跡は見当たらなかった。黒曜石のいわゆる三角錐と剝片が2点、西側から出土した。

そして調査区の北側、尾根の頂部にちかい場所から、黒曜石の細かな剥片が多く出土した。このため地主に許可を得て、わずか拡張した。黒曜石の剥片47点と、安山岩の磨石1点、早期押型文の土器片2点、硬砂岩の破片を発掘したが、遺構の検出には至らなかった。

出土遺物 土器は早期の埴沢式で、山形の押型文が施されている。12は安山岩の磨石で、側面を磨り面として使用している。とくに右側が磨れてすべすべしている。8・9には細かな刃こぼれがみられる。10はいわゆる三角錐。



第4図 出土遺物 (1~7、11・12:1/3 8~10:1/2) 1~9:集石
10:集石 11・12:北側拡張区



個人住宅建築申請地（11836-8、11840-2）全景

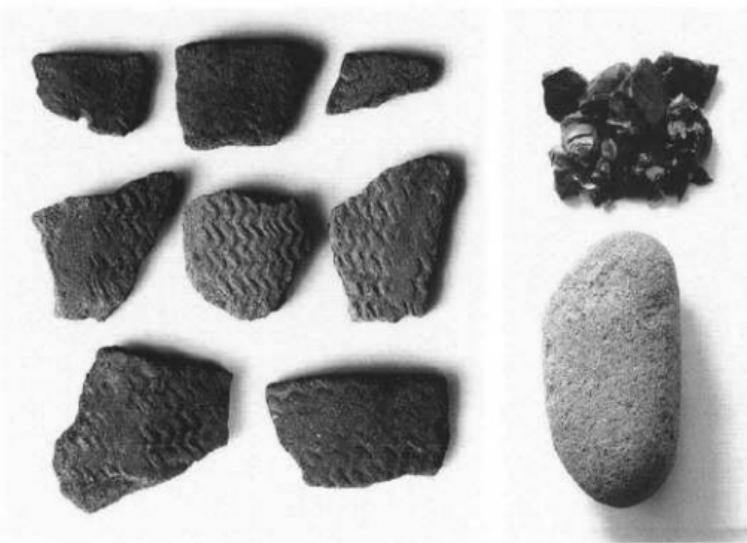


個人農地造成申請地（11840-1）調査風景



集石 1 (上：上面 下：下面)

集石 2 (上：上面 下：下部)



早期押型文

剥片と磨石

報告書抄録

| ふりがな | とっくり いせき | | | | | | |
|--------|---|--------|----|--------------------|-------------------|------------------------|----------------|
| 書名 | 徳久利遺跡 | | | | | | |
| 副書名 | 平成19年度個人住宅建築及び個人農地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 | | | | | | |
| 卷次 | | | | | | | |
| シリーズ名 | | | | | | | |
| シリーズ番号 | | | | | | | |
| 編著者名 | 小松 隆史 | | | | | | |
| 編集機関 | 富士見町教育委員会 | | | | | | |
| 所在地 | 〒399-0214 長野県諏訪郡富士見町10777 Tel. 0266-62-9235 | | | | | | |
| 発行年月日 | 西暦 2008年3月20日 | | | | | | |
| ふりがな | ふりがな | コード | 北緯 | 東経 | 調査期間 | 調査面積 m ² | 調査原因 |
| 所収遺跡 | 所在地 | 市町村 | | | | | |
| 徳久利 | 長野県富士見町富士見 | 203629 | 1 | 138度 13分 50秒 | 35度 55分 40秒 | 20071115 20071128 | 個人住宅建築及び個人農地造成 |

徳久利遺跡

平成19年度個人住宅建築及び個人農地
造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2008年3月20日

発行 富士見町教育委員会

印刷 ほおづき書籍舎
長野市柳原2133-5
TEL (026) 244-0235